

(1) 基本的に

目の病は、ツボの出方に特徴があり、それを参考にとすると、色々な器官や臓器の症状に対するツボを予測することが可能になる。

経絡的には、麦粒腫や赤目など、目の表面の病には、手陽明。近視や網膜剥離など、目の奥の病には、足厥陰。目の表面は、顔の前面にあり、前の病なので陽明、肩胛骨・鎖骨から上なので、手陽明。また、目の高さで頭蓋を水平に切断した面を考えれば、目の奥がその切断面のほぼ中央付近に位置することから、足厥陰。

横輪切り相関で、目の周りや、目の高さの後頭部。

肩胛骨・鎖骨より上の病、特に、首から上の病には、首肩背の痼りが関係。血行や動きの関係に由来する。特に、近視や乱視などとは関係が深い。目を始め顔頭の器官の血流に関係する動静脈は首を経由するし、目は、首肩背上部と一緒に使うことが多い、その2つに由来する。

この3つのツボの出方

1. その器官の位置と経絡の関係
 2. その器官の位置と横輪切りの関係
 3. その器官との連動や、そこへの血行の関係
- というのは、ある器官の症状に対するツボの出方を予測するとき役に立つ。そこへの神経伝達に関係することもある。また、症例に出ているツボを、この視点で分類してみるとよい。

子供の仮性近視は、学校でのイジメなどによる心の負担、本やゲームなどを見続けて目が近距離に適応してしまったこと、この2つが原因のことが多い。この2つを改善しないで眼鏡で補正すると、度は進みやすい。目の運動法や目の周りや下翳風の指圧と、首肩や手指の痼りを解すことが効果的。

(2) ツボの出やすい所

1. 経絡：手陽明と足厥陰

目の表面の病には手陽明だが、目尻の辺りの症状は、手少陽よりに出やすい。急性症状なら、親指から中指までの手首より先で、鍼なら手甲の合谷、2-3間、3-4間、その先の八邪。灸なら指のツボで、骨空、拳先、節紋、井穴など。慢性症状なら、上腕の臂臑、手五里、曲池など。

目の奥の病には足厥陰で、足では、陰包、中都、蠡溝、中封など。頭の、目を通り正中線に平

行な線と、耳を通り正中線と直行する線の交点の辺り。

2. 横輪切り：目～耳、目の後ろの頭部

目の周り是指圧に向く。眼窩では、睛明、眼窩上中央、承泣、瞳子髎など。目の近くの窪みでは、陽白、四白、太陽など。

耳の周りでは、下翳風、耳殼頂、角孫などが使われ、特に耳たぶの近くで顎の付け根と首の境目の下翳風は、視力検査の直前でも効果が出る。

目の後ろの後頭部では、承靈～腦空。網膜剥離など慢性の病では、表面が径3cm位の範囲でベコベコした状態になっていることもある。

3. 血行や連動の関係：首や背中上部

後頭骨下縁の天柱、風池、完骨など。乱視では首の中央部の頸椎3-4間～横頸中央。ここにツボが出ると頭が傾きやすいことと関係がありそうに思う。

背では、頸椎7～胸椎11の1,2行線、華佗経。

(3) 手順

1. 目の表面の病の応急

麦粒腫、赤目、目にゴミなどの目の表面の病は、手首から先のツボを探して使えば、1か所で良く効く。灸なら示指(拇指,中指)の指関節中央の骨空。鍼なら手甲の合谷、2-3間や、その先の八邪。

2. 目の奥の病

近視、乱視、網膜剥離、老眼などは慢性の病なので、慢性期の型で一通り刺鍼した後に、灸で、頭のツボ、足厥陰、手指関節、上腕など。

子供の仮性近視には、下翳風、手指、首肩への指圧按摩が向く。

3. 慢性期には、置鍼+灸もよい

座位で手末端に灸した後に、頭のツボに灸か置鍼、首背、上腕のツボへ灸。

要点

- ① 目の表面の病は手陽明、目の奥の病は足厥陰
- ② ツボは、1 経絡、2 横輪切り、3 血行&連動
- ③ 目の運動法、下翳風の指圧も効果がある